

環境あきたエコ活動支援助成金実績報告

ホタルの学校づくり

おのぼホタル会

事業目的 ホタルの名所として知られた環境を未来に引き継ぐシステムづくりを行う。活動拠点を四ツ小屋小学校に設けて地域の環境保全に努める。

事業内容 ホタル繁殖システムを確立して、減少しているヘイケボタルの保全研究に取り組みました。繁殖設備は室内飼育室でふ化・幼虫飼育（3令）まで行い、その後小学校に設けたビオトープに放流しました。ビオトープでは事前に食物連鎖に係る植物（セリ、クレソン）の栽培、巻貝（カワニナ、サカマキガイ）の飼育を行い、その結果、繁殖システムの方向付けが出来ました。

当地域ではゲンジボタルの絶滅が危惧されており、復活に取り組みました。ゲンジボタルの飼育は安定した水質と溶存酸素量が必要であることから、ビオトープに水質浄化及び酸素発生装置を設置しました。水質は改善され、設置前・後でpH 9.5及びpH 6.4となり効果の実証ができました。

ホタル保全を啓発する「ホタルまつり」を7月13日（土）に開催しました。来場者は300人を超える盛況でした。今後は恒例行事として定着を図りたいと思っています。ホタルまつりにはホタル保全団体関係者が視察に訪れて交流を深めました。その後、保全団体の交流・講演会を2回実施しました。受講者は計50名でした。



(ホタル水路の始点)



ビオトープ施設

(親水機能の付加)

事業の成果 ホタルをととした環境・地域資源の保全意識の啓発に効果がありました。また、ふるさとの自然・伝統文化を再認識する契機となりました。地区周囲は区画整理工事が実施されることから、ホタルの「引っ越し作戦」に本技術の効果が期待されています。



ホタル団体交流会



講演会

今後の取組 ホタル飼育システム及びホタルまつり事業は他団体と共有することで波及効果が期待できます。特にゲンジボタルを町中で見られる取組は関心が大きく、飼育システムの普及に努めてたいです。



ホタルまつり

ホタルまつりでは、保護者や高齢者からは昔の経験を孫や子に話す声があちこちで聞こえて微笑ましい夏の夜でした。

ホタル保全団体には飼育方法やカワニナなどを提供することで親睦を深めました。